

JA全厚連情報



自由民主党議員連盟「農民の健康を創る会」 JA北海道厚生連・旭川厚生病院を現地視察

目 次

- 税制改正要望に関する対応等について説明・協議
厚生連常勤役員・参事会議を開催 1
- J A北海道厚生連・旭川厚生病院の現地視察を実施
農民の健康を創る会 3
- 財務会計・組織経営について研修
厚生連経営管理職層育成研修会（応用編、経営理論編）をWEB開催 6
- 新型コロナウイルス感染症対策への対応や喫緊の課題等について協議
事業企画委員会・医療事業部門医師PTを開催 8
- 医師の働き方改革への対応について研修
厚生連病院事務部長セミナーをWEB開催 10

・通信員だより

- 地域の介護施設との連携の集い開催（湖東厚生病院） 12
- 令和5年度「生徒と教師の職場体験学習」（雄勝中央病院） 13
- J Aふくしま未来から鹿島厚生病院に巡回バス「しあわせ号」運行助成金贈呈（鹿島厚生病院） 14
- 『やさしい医学解説』Vol.60 発刊へ（J A茨城県厚生連） 15
- 装具の一部に3Dプリンター活用（茨城西南医療センター病院） 16
- 土浦協同病院附属看護専門学校第50期生55名の戴帽式（土浦協同病院附属看護専門学校） 17
- 院内防災訓練を実施（伊勢原協同病院） 18
- こどもメディカルラリーを開催（相模原協同病院） 19
- 第2回管理部総合職3年目職員研修会を開催しました（J A長野厚生連） 20
- 第15回 福井県J Aグループウォーキング大会の開催（J A福井県厚生連） 21
- 救急医療功労者知事表彰を受賞しました（J A静岡厚生連遠州病院） 22



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp
(事業運営支援グループ)
<http://www.ja-zenkouren.or.jp>
編集責任者 中村 純誠



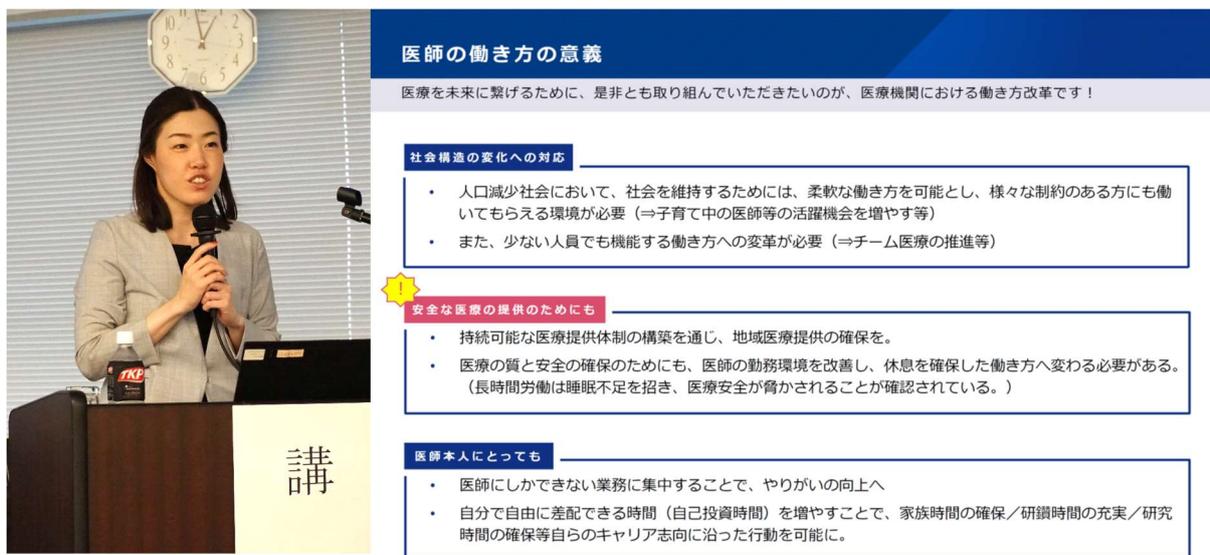
税制改正要望に関する対応等について説明・協議

厚生連常勤役員・参事会議を開催

令和5年9月26日に東京・TKP 東京駅大手町カンファレンスセンター「ホール 22G」において、厚生連常勤役員・参事会議を開催した。

会議に先立ち、藤川葵氏（厚生労働省医政局医事課医師等医療従事者働き方改革推進室室長補佐）が「医師の働き方改革について」をテーマに講演を行った。

講演では、改めて働き方改革の趣旨・目的、国としての「医師の働き方改革」への対応を説明いただき、「医師の働き方改革は、医師本人のみならず、社会構造の変化への対応や安全な医療の提供のためにも必要なもの。医師を含めた多職種で改めて勤務環境改善の取組を考えていただきたい。」とお話しいただいた。



医師の働き方の意義

医療を未来に繋げるために、是非とも取り組んでいただきたいのが、医療機関における働き方改革です！

社会構造の変化への対応

- 人口減少社会において、社会を維持するためには、柔軟な働き方を可能とし、様々な制約のある方にも働いてもらえる環境が必要（⇒子育て中の医師等の活躍機会を増やす等）
- また、少ない人員でも機能する働き方への変革が必要（⇒チーム医療の推進等）

安全な医療の提供のためにも

- 持続可能な医療提供体制の構築を通じ、地域医療提供の確保を。
- 医療の質と安全の確保のためにも、医師の勤務環境を改善し、休息を確保した働き方へ変わる必要がある。（長時間労働は睡眠不足を招き、医療安全が脅かされることが確認されている。）

医師本人にとって

- 医師にしかできない業務に集中することで、やりがいの向上へ
- 自分で自由に差配できる時間（自己投資時間）を増やすことで、家族時間の確保／研鑽時間の充実／研究時間の確保等自らのキャリア志向に沿った行動を可能に。

講演する厚生労働省・藤川氏

厚生労働省・藤川氏の講演資料抜粋

出席者からは「医師のタスクシフトがなかなか進まない」という意見や、「主治医の意見しか聞いてくれない患者への対応はどのようにしたらよいか」等の質問があった。藤川氏からは「国民への周知については、現在、厚労省で患者及びその家族へ説明するためのポスター等を作成中のため、活用いただきたい」旨の説明がされた。

続いて、谷口直樹氏（岐阜県厚生農業協同組合連合会代表理事理事長）が「JA岐阜厚生連における地域医療構想への対応」をテーマに講演を行った。

講演では、JA岐阜厚生連が行った4医療圏7病院の病床再編について、各医療圏の病院ごとの背景と課題を解説いただき、行政や関係者との調整にかかる体験談を含めて、お話しいただいた。



講演する岐阜県厚生連・谷口理事長



岐阜県厚生連・谷口理事長の講演資料抜粋

出席者からは「JAもしくは組合員等にはどのように説明されてきたのか」との質問があった。谷口氏からは「事業が大きく変わることから、総会において丁寧な説明をさせていただいたが、その前の経営管理委員会の協議段階でしっかりと説明した。」との説明がされた。

その後、会議では、(1) 税制改正要望に関する件、(2) JA介護事業運営研究会のとりまとめについて、(3) 医療用物資の国備蓄品の売却事業、一等に関し協議を行った。

(1) では、自由民主党議員連盟「農民の健康を創る会」が、厚生連が抱える課題について、現地で把握する視察が可能とのことから、当時クラスター対応で苦勞され、その有効な対策となる有償個室の増加が必要となっているJA北海道厚生連・旭川厚生病院において現地視察が実施されることとなった旨を報告した。



会議の様子

J A北海道厚生連・旭川厚生病院の現地視察を実施 農民の健康を創る会

自由民主党の議員連盟「農民の健康を創る会」は、令和5年9月27日、JA厚生連の保健・医療事業の実態などを把握し、今後の政策提言等へ反映させることを目的に、北海道旭川市のJA北海道厚生連 旭川厚生病院（森達也院長）の視察を行うとともに、意見交換を行った。

視察には、参議院議員 野村哲郎会長代理、衆議院議員 永岡桂子幹事長代理、衆議院議員 三ッ林裕巳事務局長、衆議院議員 東国幹議員、衆議院議員 伊東良孝議員、参議院議員 岩本剛人議員、参議院議員 船橋利実議員の7名の国会議員のほか、農林水産省、厚生労働省、JA全中及びJA全厚連が出席した。

また、JA北海道厚生連からは、西本護会長をはじめ、早川仁史副会長、小川秀幸専務及び旭川厚生病院からは、森院長、東事務部長、岡看護部長が出席した。上川地区の行政からは、山本進東神楽町長、谷寿男鷹栖町長、草野孝治美深町長、JAからは、植崎博行JAふらの代表理事組合長（上川地区農業協同組合長会会長）、岸本文孝JA東神楽代表理事組合長、相澤峰基JAたいせつ代表理事組合長が参加した。

○現地視察

野村会長代理の挨拶から旭川厚生病院での意見交換会がスタートした。



農民の健康を創る会・野村会長代理



意見交換会の様子(野村会長代理挨拶)

旭川厚生病院の概況説明では、森院長から、新型コロナのクラスター対策の課題、老朽化した病院の新築整備等に関し抱えている課題、さらに、地域における周産期医療を担う病院としての医療提供について説明があった。

引き続き、JA全厚連から、①円安・原油価格の高騰等による物価高騰への対応、②有償病床に係る法人税非課税措置要件の見直し—について要望を行った。

○意見交換会

引き続き行われた意見交換では、参加した国会議員より、新型コロナに係る病床確保料等の特例措置の10月以降の対応や改正感染症法の対応、地域医療構想への対応、地方創生臨時交付金の今後の見通し、医療従事者の処遇改善—等に関する意見が出され、活発な議論が行われた。



永岡桂子幹事長代理

三ツ林裕巳事務局長

東国幹議員



伊東良孝議員

岩本剛人議員

船橋利実議員

意見交換会の様子

○意見交換のまとめ（野村会長代理）

大変活発な意見と役所の課長からも適切な答弁をしていただけたこと、心から感謝を申しあげる。今から検討を進めていく課題もたくさんいただいたようですので、森山会長とも話をしながら、次のステップにどう繋げていくか考えていかななくてはならないと思っている。病院だけで解決できない問題は、いろんな形でサポートしていかなければならないと思った。

旭川厚生病院では、森院長、岡看護部長にお忙しい中ご案内いただき、心から感謝を申しあげます。また、首長をはじめ JA の組合長の皆さん方にもご参加いただき、ありがたく思っている。

病院経営というのは、厚生連の場合は全国的な組織であり、いろんな課題を抱えているので、それらをこの「創る会」で我々が一つずつ潰していかなければならないと考えております。大変私ども自体勉強になったなということを心から感謝を申しあげまして、総括とさせていただきます。

○病院の施設を視察する様子



病院の概要説明



コロナ患者対応の説明



病院内の視察の様子



意見交換会後の集合写真

財務会計・組織経営について研修

厚生連経営管理職層育成研修会（応用編、経営理論編）をWEB開催

本会は厚生連経営管理職層育成研修会の「応用編（第1クール）」（9月21～22日）と「経営理論編（1日目）」（9月27日）をWEBで開催した。応用編には10厚生連から19名が参加、経営理論編には11厚生連から21名が参加した。

厚生連経営管理職層育成研修会は、基礎編（全3クール）と応用編（全3クール）に階層化して開催しており、応用編では、基礎編の受講を終えた方が財務会計と管理会計の応用レベルの知識の習得を図る。

第1クールでは、財務会計の応用について、以下の内容で行われた。

【厚生連経営管理職層育成研修会（応用編）】

	研修内容
第1クール （9月21～22日）	財務会計の応用 <ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表作成の前提となる内部統制（粉飾・不正事例等） ・収益分析からの増収策 ・病院特有の財務分析 ・倒産事例から見る財務諸表

倒産した病院の財務分析を実施します

流動比率 流動資産÷流動負債

流動比率は短期の支払能力を評価する指標です。
全ての事例で安全性の目安200%以下となっています。

事例B

事例Bの推移: 流動資産1,200 / 流動負債1,000 (120%) → 流動資産1,000 / 流動負債1,000 (100%) → 流動資産1,400 / 流動負債1,500 (93%)

事例C

事例Cの推移: 流動資産1,000 / 流動負債1,000 (100%) → 流動資産1,300 / 流動負債1,600 (79%) → 流動資産1,800 / 流動負債1,900 (95%)

事例A

事例Aの推移: 流動資産300 / 流動負債900 (33%) → 流動資産300 / 流動負債1,200 (25%) → 流動資産400 / 流動負債1,200 (33%)

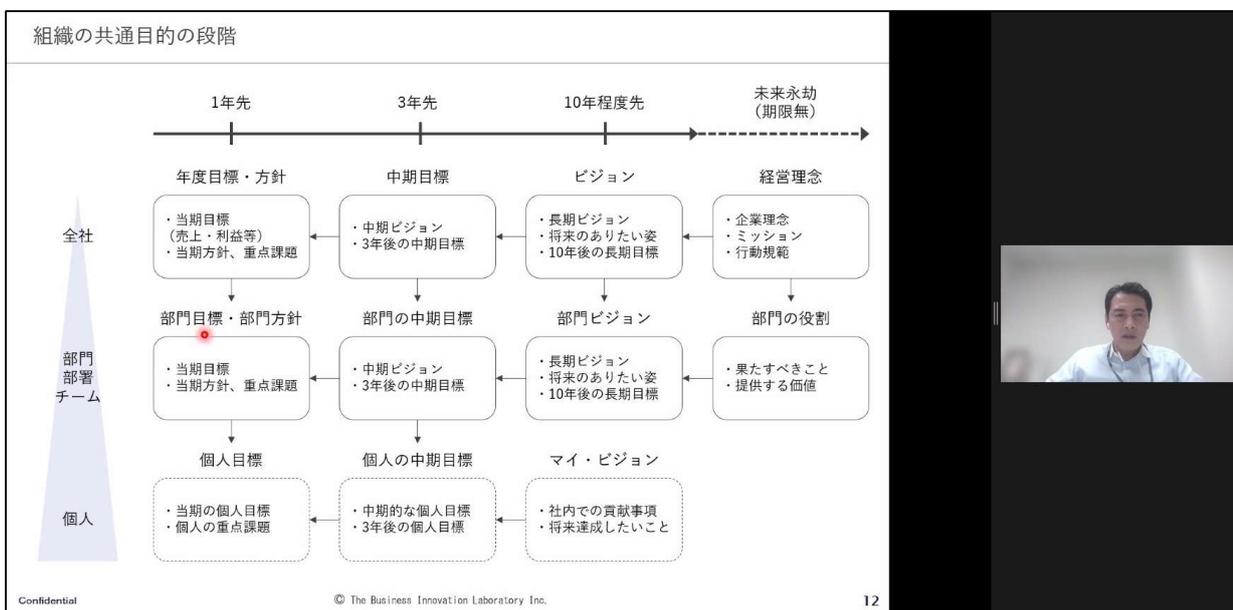
研修の様子

経営理論編（年3日）については、病院・健診センター等施設単位の経営に限らず、厚生連全体を1組織としてマネジメントする職員を育成するため、令和3年度より開催している。

1日目は、組織行動の基本と経営メカニズムについて、以下の内容で行われた。

【厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）】

	研修内容
1日目 (9月27日)	組織行動の基本と経営メカニズム 【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・JA厚生連の特色、ガイダンス ・組織とは ・組織の能力最大発揮の条件 ・経営管理職の役割と行動 【ワーク】 <ul style="list-style-type: none"> ・自己変革計画策定



研修の様子

参加者からは、「自身の現在を再認識する良い機会となった。」「他厚生連とのディスカッションもとても有意義であった。」「事前課題や意見交換があり、ある程度の緊張感があつて非常に集中できた。」「管理職に求められる行動について、現在の自身の状況を見つめるよい機会となった。」等の感想が寄せられた。

新型コロナウイルス感染症対策への対応や 喫緊の課題等について協議

事業企画委員会・医療事業部門医師PTを開催

本会は、事業企画委員会・医療事業部門医師PTを東京・大手町のJAビルにおいて、10月2日に開催した。

会議では、(1) 新型コロナウイルス感染症対策への対応や喫緊の課題等、(2) 医療用物資の国備蓄品の売却事業一等について対応を協議した。

(1) に関しては、日本病院会・相澤会長がコロナ前と比べ入院・外来患者が減少し経営に多大な影響が出ていることから、調査の実施を進めるとの報道を受けて、各委員から、患者動向の現状認識を伺うとともに、今後の対応について協議した。委員からは以下のとおり発言があった。

- ・毎月受診していた患者に対する処方を2～3ヶ月に変更した病院があるので、そのような病院を抽出して調査を行ってはどうか。
- ・地方と都市部の違いもあるが、単に入院・外来患者数が減少している病院以外の病院もあることも含めて、分析しなければならない。
- ・大病院とか大都会の病院は今回の話はあまり影響がない。特に厚生連を考える時に収益が悪いのはやはり中小病院なので、そこにターゲットを当てて、そこを掘り起こさないといけない。
- ・地方では、高度急性期病院の稼働率と患者数等がコロナ前に戻っていないため、連携する病院(200～300床の中規模病院)に、その後の紹介患者が回ってきていない。
- ・患者数の減少は複数の要因によるものと考えるが、患者数はコロナ前からコンスタントに減少してきており、コロナ前と比較すること自体に疑問を持っている。医療需要、患者の受診動向もコロナ前とは違うと考え、早く現状の医療需要に合った体制を整えなくてはならない。
- ・厚生連病院は農業者が多い地域が中心であることから、人口減が相手と考えて、地域医療構想と一緒にあって、その先の手を打たないといけない時期に入ったと考えている。

(2) については、国におけるPPE(個人用防護具)の回転備蓄の取組について、事業を厚生労働省より委託されている有限責任監査法人トーマツから事業概要の説明が行われ、意見交換を行った。

令和5年度事業企画委員会 名簿（医師 PT 部門）

氏名	厚生連名	役職
小野地 章一	秋田県	代表理事理事長
高野 靖悟	神奈川県	代表理事理事長
洞 和彦	長野県	代表理事理事長
塚田 芳久	新潟県	代表理事理事長
田宮 隆	香川県	代表理事理事長

【参考】

令和5年度事業企画委員会 名簿（実務者 PT 部門）

氏名	厚生連名	役職
小川 秀幸	北海道	代表理事専務
高久 忠	福島県	代表理事理事長
高木 茂	富山県	代表理事理事長
宇野 修二	愛知県	代表理事理事長
庄山 隆裕	三重県	代表理事理事長
豊田 達之	広島県	代表理事理事長

令和5年度事業企画委員会 名簿（保健事業部門）

氏名	厚生連名	役職
飯沼 全司	山梨県	代表理事専務
上月 裕司	兵庫県	代表理事常務
三宅 隆	愛媛県	代表理事理事長
西野 良二	熊本県	代表理事常務

医師の働き方改革への対応について研修 厚生連病院事務部長セミナーをWEB開催

本会は10月11日、厚生連病院事務部長セミナーをWEBで開催し、21 厚生連から130名が参加した。

本セミナーは、病院経営全般にかかる情報の取得、厚生連病院事務部長間の連携の促進を図ることを目的に開催しており、今年度は、10月11日と11月9日の2日間で開催する。1日目は、『みんながハッピーなタスクシフトのためのチーム医療』～医療事業者の労働環境を改善し、いきいきとやりがいをもって働くチーム医療～と題して、近森正幸氏（社会医療法人近森会 近森病院 理事長）が講演を行った。

講演の中で近森氏は、「医師の働き方改革については、医師の業務量を減らすのではなくコア業務への絞り込みを行い、医師のコア業務以外は多職種に全面的にタスクシフトすることで、働きやすい環境になる。」と述べ、近森病院でのタスクシフトの事例を踏まえてお話しいただいた。



研修の様子

参加者からは、「チーム医療の発想を転換する必要があると感じた。」「医師の指示で行動するのではなく、各職種で判断し介入することで、各職種が主役となり、医師の負担軽減にもつながり、チーム医療が発展する。想像すらしてないことでしたので驚きました。」等の感想が寄せられた。

【近森会グループ 施設概要】



近森会グループ 関連施設: 792床

高度急性期から急性期、回復期、在宅まで

社会医療法人近森会

- 近森病院: 512床
- 高度急性期～急性期病棟(418床)
- 地域包括ケア病棟(34床) ↑ } 452床
- 総合心療センター(60床)
- 救命救急センター 地域医療支援病院
- 管理型臨床研修病院 災害拠点病院

■ 事業所: 在宅サポートセンター

- 訪問看護ステーションラポール ちかもり
- 訪問看護ステーション ちかもり
- 訪問リハビリテーションちかもり



■ 近森リハビリテーション病院: 180床

脳卒中、整外の全館回復期リハ病棟

旧近森リハビリテーション病院改装



都会は「病院の機能分化と連携」

田舎は「病院の機能集約化と淘汰」

近森会グループは全国有数の病院機能の集約化へ再編成

医療法人松田会

- 近森オルソリハビリテーション病院: 100床
- 整形外科の回復期リハ+地域包括ケア+一般病棟
- 内科、整形外科の地域包括ケア病棟+一般病棟

社会福祉法人ファミリーユ高知 障害者の社会復帰、就労支援センター

- 高知ハビリテーションセンター
- しごと・生活サポートセンターウェーブ



【近森 正幸氏 略歴】

- 1947 (昭和 22) 年 7 月 31 日 高知県生まれの 76 歳
- 1972 年 3 月 大阪医科大学を卒業。
- 1978 年 4 月 近森病院に帰り、外科科長として活躍。
- 1984 年 11 月 37 歳で医療法人近森会 理事長、近森病院 院長に就任。
- 1989 年 12 月 「近森リハビリテーション病院」を開設。
- 2003 年 2 月 「近森病院」が高知県で初めて地域医療支援病院として承認される。
- 2003 年 3 月 NST を設立、NST Chairman に就任する。
- 2007 年 10 月 整形外科専門の「近森オルソリハビリテーション病院」を開設。
- 2008 年 4 月 障害者支援施設「高知ハビリテーションセンター」を高知県より民間移管され、急性期医療からリハビリテーション、在宅への近森会グループのシステムが構築された。
- 2010 年 1 月 近森会が社会医療法人に認定される。
- 2011 年 5 月 近森病院が救命救急センターに指定される。
- 2020 年 12 月 地域医療連携推進法人「高知メディカルアライアンス」(KMA) が認定され、代表理事に就任。
- 2023 年 1 月 近森病院 院長を退任する。



地域の介護施設との連携の集い開催

(JA秋田厚生連・湖東厚生病院)

湖東厚生病院（波多野善明病院長）では8月29日、「八郎瀉町えきまえ交流館はちパル」にて、「令和5年度地域の介護施設との連携の集い」を開催しました。当院の入院患者さんの多くは高齢者であり、9割以上が70歳以上であることから、介護施設との連携は大変重要となっています。これまで地域の医療機関との集いは開催してきましたが、介護施設との「顔の見える交流の場」はなく今回初めての開催となりました。

当院は「地域を支え地域の皆様に愛される病院を目指す」ことを基本理念に、「高齢者の生活の質を大切にする暖かい医療」、「介護や福祉と連携しながら積極的な在宅医療の推進」などを基本方針として、その実現に向けた当院の取組みを紹介し意見交換を行いました。

内科の伊藤善昭医師からは「当院におけるオンライン診療について」、内科の漆畑宗介医長からは「南秋地域のACP（アドバンス・ケア・プランニング）の現状とこれから」について、そして、内科の志田青慈診療科長からは「当院における訪問診療について」の講演のほか、看護部は、「切れ目のない医療と介護を提供する」をテーマに、宮城正子副院長・看護部長からは「ぷちとら（体験学習会）」、認知症看護認定看護師の大原樹看護副師長からは「出張！かんきょう改善隊」について講演を行いました。いずれの講演も参加者にとっては身近な問題で、これからの業務に生かせる情報を得る良い機会となりました。

当院は「秋田県で一番高齢者に優しい病院」をキャッチフレーズとしており、今後は更に介護施設や医療機関等との連携を強化し、地域の皆さんと共に「秋田県で一番高齢者に優しい地域」を目指していきます。



「地域の介護施設との連携の集い」開催の様子

(斎藤美翔通信員)

令和5年度「生徒と教師の職場体験学習」

(JA秋田厚生連・雄勝中央病院)

湯沢雄勝地域では毎年、中学生の職場体験を行っています。この取組は、学校と看護協会が連携して医療福祉分野に関心を持つ生徒の進路や職業選択支援を図る事業です。今年度は4施設での実習の受け入れが決定し、雄勝中央病院(小松田敦病院長)では3日間で41名の生徒が職場体験を行いました。

職場体験は院内で働く各職種の紹介・講義と体験学習・意見交換会で構成されています。開校式では緊張した面持ちでしたが、手洗いの実習が終わる頃には笑顔が見られるようになり、車いすやベッドの扱いに苦戦したりしながら、元気に活動してくれました。私たち担当者も、職業への興味と知識が広がることを願いながら取り組みました。

意見交換会では、最初に1～3年目の看護師が職場の紹介や看護師を目指したきっかけ、看護のやりがいなどを自由に話しました。みんな素直な表現で生き生きと思いを語ってくれるので、生徒も真剣に聞き質問もたくさん出ました。その答えもまた絶妙で感心することが多く、若手看護師の思いや成長を知る良い機会になりました。サポートの師長や副部長が自分の経験知を話し始めることもあり、看護観の伝承にもつながりました。

体験学習の受け入れは生徒のためだけでなく私たちにとっても学びや喜びがあり、今後も地域の中で医療への興味を培い育成につなげていきたいと思えます。



職場体験学習の様子

(斎藤美翔通信員)

JAふくしま未来から鹿島厚生病院に 巡回バス「しあわせ号」運行助成金贈呈

(JA福島厚生連・鹿島厚生病院)

9月12日、JAふくしま未来より福島県南相馬市鹿島区の鹿島厚生病院（渡邊善二郎病院長）に対し患者送迎用巡回バス「しあわせ号」運行の助成金を贈呈されました。同院で贈呈式を行い、巡回バスの更新に併せてラッピングを施した新たな車両がお披露目されました。

ラッピングバスは、JAふくしま未来のマスコットキャラクター「みらいの4兄弟」やJAグループが推奨する「国消国産」をデザインしました。

贈呈式にはJAふくしま未来の数又清市組合長、JA福島厚生連の高久忠理事長、鹿島厚生病院の渡邊善二郎院長ら関係者30名が参加し、数又組合長から渡邊院長へ助成金の目録が手渡されました。渡邊院長は「病院のシンボルとして、大切に運行していきたい」と感謝の言葉を述べました。ラッピングバスは、13日から南相馬市と飯館村を中心に巡回運行を開始しています。



数又組合長(右)から目録を受け取る渡邊院長(左)



ラッピングバスをお披露目した贈呈式

(佐藤剛通信員)

『やさしい医学解説』Vol.60 発刊へ

(JA茨城県厚生連)

JA茨城県厚生連（長谷川博史・代表理事理事長）では、疾病、治療、検査、予防医療などに関する情報について、本会の医療従事者がわかりやすく解説した冊子「やさしい医学解説」Vol.60を発行しました。

LUCKY FM茨城放送（FM水戸局 94.6MHz、AM水戸局 1197kHz、土浦・県西 1458kHz）の朝の番組「HAPPYパンチ」内のJAグループ茨城の提供によるコーナー「JAさわやかモーニング」の中で、本会が担当している「やさしい医療」及び「メディカルインフォメーション」の内容を一年分（2022年4月～2023年3月）まとめたものです。冊子は本会の病院や県内の各JAの窓口において無料で配布されており、地域住民から好評を得ています。

更に、本会ホームページにも最新号及びバックナンバーを公開しており、スマートフォンやPC上での閲覧を可能としています。

放送当時のものをそのまま掲載しており、内容が現在と若干異なる場合もありますが、家庭の医学書として気軽に読んでいただき、皆さまの健康管理に少しでも役に立つことを願っています。

< JA茨城県厚生連ホームページ >

<https://iba-kouseiren.or.jp/info.php#commentary>



『やさしい医学解説』Vol.60

(酒井一彦通信員)

装具の一部に3Dプリンター活用

(JA茨城県厚生連・茨城西南医療センター病院)

JA茨城県厚生連(長谷川博史・代表理事理事長)が運営する茨城西南医療センター病院(野村明広病院長)のリハビリテーション部では、四肢が不自由な患者が必要とする装具の一部作成に3Dプリンターを活用されています。

渡辺秀作作業療法士は、前職で培われた3D設計技術を活かし、2020年から同プリンターによる作成を始めました。通常、装具は患者一人ひとりの腕や足の形に合わせて、外部委託による制作となるため、ある程度の時間と費用が必要となりますが、院内で一部でも作成できることにより、時間の短縮や材料が安価なためコストダウンに繋がるのだそうです。

渡辺秀作氏は、今後について、「現時点では一部に限られているが、患者さんへの装具提供の効率化を目指し、これからも作成できる範囲を広げていきたい」と話しています。



3Dプリンターで作成された装具の一部

(酒井一彦通信員)

土浦協同病院附属看護専門学校 第50期生55名の戴帽式

(JA茨城県厚生連・土浦協同病院附属看護専門学校)

JA茨城県厚生連(長谷川博史・代表理事理事長)が運営する土浦協同病院附属看護専門学校(渡部誠一学校長)では、10月7日、第50期生(2年生)の戴帽式が行われました。

現在、ナースキャップは医療現場でほぼ廃止となっており、昨年が最後となる予定でしたが、当校の学生や教職員が式典の継続を強く希望し、開催されることになりました。

戴帽の儀では2年生55名が真新しいナースキャップを被り、ナイチンゲール像のキャンドルから自分のろうそくに火を灯し、ナイチンゲール誓詞を唱和しました。

渡部誠一学校長は「3年間の学習で今日は折り返し地点。今後も日々学習して立派な看護師になれるように一生懸命頑張ってもらいたい」と激励の言葉を述べました。

3年生代表の嶋田七海さんは、「灯の誓詞で誓った看護の心や周囲への感謝の気持ちを忘れずに、看護師という目標へ向かってともに歩んでいきたい」とお祝いのメッセージを伝え、それに対し、2年生代表の関口桃子さんは「ナースキャップを戴いた今日のこの感動を忘れず、日々精進し、一步一步着実に看護の道を歩んでいきたい」と応えました。



ナイチンゲール誓詞をする戴帽生

(酒井一彦通信員)

院内防災訓練を実施

(JA神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

9月11日に伊勢原協同病院(鎌田修博病院長)は、院内防災訓練を実施しました。夜間の火災を想定し、初期消火の対応や患者役職員の避難誘導、現場での指揮を行い、災害時の避難経路と連絡系統を確認する訓練となりました。

訓練後、消防士による講評では夜間の看護師が少なく避難誘導が難しい点から、初期消火の対応が特に重要だとアドバイスを受けました。

また、屋外で消火器訓練を行い、消火器の使用方法を確認しました。実際の火災現場では噴射した消火剤の勢いで炎が煽られることがあるため、腰を低くし、自分の退路を確保してから消火にあたるなど、火災現場の情報も交えた訓練は有意義なものとなりました。



訓練の様子

(生沼貴彦通信員)

こどもメディカルラリーを開催

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

9月23日に相模原協同病院(渋谷明隆病院長)は、第2回こどもメディカルラリーを開催しました。こどもメディカルラリーは、子どもたちだけで遊んでいる時に友



子どもたちによる手当の様子



集合写真

達がケガをした場合や、倒れている人を見つけた際に、子どもたちだけで考え、自分達の身を守りつつ、ケガをした人、倒れている人に適切な手当ができるようにとの願いから企画されました。

自分達の身を守り、119番通報、止血処置、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用方法などを学び、すべてを子どもたちだけで考えて行動してもらいます。メディカルラリー当日は、スタッフが病院内に様々な応急手当が必要となるシナリオステーションを作り、傷病者に対して適切に必要な処置ができるかを採点します。その他に、競技を楽しむアトラクションがあり、クリアすると得点がもらえ最終的に合計得点の一番高いチームが優勝となります。

子どもたちには、メディカルラリーを通じて命の大切さや人を思いやる気持ちを持っていただければと思います。

(生沼貴彦通信員)

第2回管理部総合職3年目職員研修会を開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連(洞和彦・代表理事理事長)は10月16日に管理部総合職3年目職員研修会を行いました。この研修は、社会人として困難な状況に直面した時に、実際的に問題解決に向かえるマインドセット(ATCモデル)を養い、希望を持って将来の目標に対し積極的に向き合える態度(VIA)を形成する事を目的に、開催しています。

今回の第2回目研修では、前回研修後のレジリエンス実践の振り返りを行い、VIA診断および演習を通じて自身の強みを理解しました。また各自がVIAを職場で生かす方法について考えました。

参加者からは「自分の強みを知る事で自信につながる」や「実戦で上手く使えるように理解して活用していきたい」などの声が寄せられました。全3回の開催で次回は2月を予定しています。



研修会の様子

(山岸愛通信員)

第15回 福井県JAグループウォーキング大会の開催

(JA福井県厚生連)

JA福井県厚生連（宮田幸一・代表理事会長）（福井県JAグループ）と福井県JAウォーキンググループ連絡会は10月1日に福井市のふくい健康の森で第15回福井県JAグループウォーキング大会を開催し、ウォーキンググループ会員や女性部員など約150名が参加した。

開会式では宮田幸一JA県5連会長が「人生100年時代を健やかに暮らしていけるようJAの地域貢献の一環として開催した」と挨拶。高島美津子JA県女性組織協議会会長も「歩きながら自然も楽しんでほしい」と呼びかけた。

当日は小雨がぱらつくあいにくの天候だったが、参加者は準備体操の後、園内の外周コース約4キロを雨にぬれた足元に気を付けながら思い思いのペースで歩き、色づき始めた紅葉を眺めながら、健脚を磨いた。

また、ゴールでは福井県のブランド米「いちほまれ」のおにぎりを配布したほか、県内のJA農産物直売所9店舗と連携したお買物券を配布し好評を得た。



福井県JAグループウォーキング大会開催の様子

(南出豊通信員)

救急医療功労者知事表彰を受賞しました

(JA静岡厚生連・JA静岡厚生連遠州病院)

JA静岡厚生連遠州病院(大石強病院長)は救急医療功労者知事表彰を受賞し、9月20日に静岡県庁にて、救急医療功労者知事表彰伝達式が行われました。

この表彰は、静岡県で毎年、「救急の日」(9月9日)及び「救急医療週間」にあわせて、地域の救急医療に貢献された個人・団体を対象に、救急医療功労者知事表彰が行われています。

遠州病院は「救急医療に10年以上の実績があり、救急医療又はその普及啓発に貢献した団体」として評価され表彰されました。



救急医療功労者知事表彰を受賞しました

(望月俊宏通信員)